

広島採用コンソーシアムの活動が 中国新聞に掲載されました！

(平成30年4月20日(金) 朝刊より)

採用活動 30社タッグ

広島県内 来月 大学生向け催し



中小企業を中心に広島県内の30社でつくる「広島採用コンソーシアム」(広島市西区)が、採用活動の連携を強めている。昨年春の結成から1年間、インターシップ(就業体験)の共同開催や情報交換を進めてきた。新卒の地元就職につながるため、5月20日に大学生を集めた初のイベント

を南区で開く。

30社は自動車部品メーカーやソフト開発、サーバー、



5月のイベントに向け、打ち合わせをする事務局の担当者(広島市西区)

警備など。人材紹介も手掛けるITコンサルタントのインターロジック(西区)が取引先に呼び掛けて昨年3月に10社で発足し、加盟社を増やした。

採用環境は学生が優位な「売り手市場」。学生の大手志向も強まる中、計画する採用数を満たせていない中小企業が多い。インターロジックの原田光治社長は「複数企業が連携し、ノウハウを共有することで各社の『採用力』が高まる」と狙いを説明する。

5月のイベントは、南区大須賀町のTKPガーデンシティプレミアアム広島駅前で開催。加盟社に今春入社した60人がグループに分かれ、就職活動の体験談を

大学生に語る。米IT大手グーグルの社員で広島県出身の山本裕介氏が、ITを活用した働き方改革の実例などを紹介する。

「昨年情報交換会を各社月に1回開き、各社の採用

している職員が対象。勤続3年

員100人。5月20日までにコンソーシアムのホームページから申し込む。事務局のインターロジック 82(297) 1321。(井上龍太郎)

J A広島市(広島市安佐南区)は今月、奨学金を返済している職員に、勤続3年ごとに5万円を支援する制度を始めた。福利厚生の一環として学生にアピールし、人材の確保と定着につなげる。広島県内のJ Aでは初めてという。

奨学金や教育ローンの返済を

奨学金返済支援 最大25万円給付

J A広島市、職員対象

している職員が対象。勤続3年ごとに15年まで、最大5回、計25万円を給付する。償還計画表などを提出して申請する。年20、40人程度の新入職員のうち、約半数が奨学金を返済していることが分かり、支援制度の導入を決めた。奨学金を返済していない勤続15年までの職員も対象としている。

中国経済